

街を行く

第132回 みなとみらい Minatomirai

歴史と今が背中合わせの街



倉庫街と観覧車。夜の観覧車は外から眺めるのは綺麗だが、ゴンドラに乗って眺めるのは少し怖い？

横浜・みなとみらいの街をゆっくり散策しました。ホテルに泊まり優雅な一日を満喫、冬の季節ならではの美しい横浜の夜景を堪能してきました。

小生、みなとみらいには馴染みがあります。しかし、街を散策するのは今回が初めて。とある企業の顧問として毎月訪ねてきたものの、ミーティングを終えると東京へトンボ返りしてしまっていたからです。

「街を行く」の連載を始めて11年。誌面で紹介するため訪ねた街も、無意識に立ち寄って面白さを発見した街も沢山記事にしてきました。一方で、今回のみなとみらいのように、結構な頻度で行き来しながら、よく考えてみたら街のことは知らなかった、といったケースも多くあることに気付いた次第です。

話題を元に戻しますと、今回は少し“ミーハー”的気分が夜景と観光を楽しみました。

写真の通り大観覧車を中心とする夜景はまさに「ブラボー！」です。建物や並木道を彩るライトアップとは一味違う迫力があります。眺める間に大観覧車に乗りたくてたまらず、翌朝11時の運転スタート時には行列へ並んでいました。

搭乗するゴンドラには、壁も床も透けたものがありましたが、高所が少し恐怖気味な小生はさすがに遠慮、ノーマルタイプで挑戦したのです。

たかが観覧車で“挑戦”とはオーバーな、と思われるでしょうが、高さ世界一を誇るアトラクションであり、最高位置に上ると相当ビビりますよ。上昇する際に下界を見下ろした時のヒリつくようなスリルは、近年忘れていた感覚でした。観覧車のほかにまだ挑戦してみたい乗り物は沢山ありましたが、さらなる刺激が心臓にこたえそうなので諦めました。

心身に負担をかける体験よりも、歴史を紐解き向かい合うタイプの散策が年相応かもしれませんので、少し歩いて「赤レンガ倉庫」へと向かうことに。ちょうどクリスマスイベントで食のフェスタが開催され、大勢の人で賑わっていました。

明治時代、開港で重要度が高まった横浜は、貿易の街として日本を代表する“ハイカラな街”になりました。国際貿易港として備わべき積載物の保全施設が赤レンガ倉庫です。取り扱われる積荷は当時日本人が初めてみる珍しい

品ばかりだったでしょう。そうした経緯から横浜は、ひとの好奇心を刺激する異国文化の発信拠点、いわば流行の最先端となったのです。今でも何かお洒落な異国情緒気分になれます。

また倉庫街は、関東大震災や戦争を生き抜き、観光地として現代に蘇っています。歴史は災難の繰り返しですが、それを潜り抜けた重みと伝統を感じたのでした。歴史的価値だけではなく、オシャレさも加わるのがこの街の心憎いところ。新しく開けた「みなとみらい」は歴史と現在の背中合わせの街なのです。

南 一弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。